

ENCYCLOPAEDIA JUPITER



世界文化大百科事典

ENCYCLOPAEDIA JUPITER

6

シャワーセン



世界文化社



世界文化大百科事典
《ジュピター》

6

セット商品につき分冊販売不可

発行所 株式会社世界文化社
東京都千代田区九段北4-2-29
Tel(262)5111(代表) 〒102

発行者 鈴木 勤
編集 株式会社世界文化社
株式会社
日本アートセンター

印刷 株式会社東京印書館
製本 中央精版印刷株式会社
製函 文京紙器株式会社
用紙 神崎製紙株式会社
王子製紙株式会社
駿河製紙株式会社

表紙 ダイニック株式会社

凡 例

この《世界文化大百科事典 ジュピター》は、現代生活のあらゆる分野にわたって必要な項目約70,000を収録した。そして、項目の解説は、その記述内容が的確・敏速に把握できるよう、つとめて簡明・平易なものとしたが、各分野の基本的事項や現代社会における重要問題については特に約300の〈特別大項目〉を設け、一般項目との関連を保ちながら歴史的・体系的に解説し、総括的な理解が得られるようにしてある。また、カラー版による写真・図版約16,000点を全ページにわたって掲載し、内容の端的な理解に役だつようにした。

項目の見出し

- 1 各ページに収録されている項目を、そのページの上方欄外に示してある。偶数ページには最初の項目、奇数ページには最後の項目の、それぞれ第4音節めまでをかたかなで示した。ただし、促音〈っ〉・拗音〈ゃ〉〈ゅ〉〈ょ〉などの小字および濁音・半濁音は正音で示し、長音〈ー〉は除いた。

東 京→トウキョ
ヨーロッパ→ヨロツパ

- 2 項目の見出しは、〈かな見出し〉と〈本見出し〉とを示した。

かな見出し 本見出し
げんじものがたり 【源氏物語】
エヌエイチケー 【NHK】
インキ [ink]

- 1) 国語読みおよびそれに準ずるものは、現代かなづかいによってひらがなの太字で示した。ただし、現代かなづかいの理解のうえで困難が予想される一部のものについては、〈見よ項目〉を立てて検索の便を図った。

ぬまず 【沼津】 ⇨ぬまづ

- 2) 外国語・外来語はかたかなの太字で示した。長音は〈ー〉で示し、〈ヴァ〉〈ヴィ〉〈ヴ〉〈ヴェ〉〈ヴォ〉〈ヂ〉〈ヅ〉は用いない。

ベートーベン (ベートーヴェンとはしない)
ベネチア (ヴェネチアとはしない)

ただし、外来語の意識が薄れて国語化されたものはひらがなで示した。

らしゃ 【羅紗】
らっぱ 【喇叭】

- 3) 地名で、日本の行政区画および外国の国名・地域名、山・川・湖・砂漠などの名称のかな見出しは、検索の便を図って関連する項目を近くに集めるために固有名詞部分のみを示した。

おおさか 【大阪(府)】
おおさか 【大阪(市)】
ミシシッピ(州)
ミシシッピ(川)

- 4) 中国・朝鮮の地名・人名は、原則として日本で慣用されている国語読みで示し、現地読みを本見出しのあとに併記した。

かほくしょう 【河北省】 ホーベイ省
ふざん 【釜山】 プサン
もうたくとう 【毛沢東】 マオツォートン

ただし、国内で現地読みが慣用されているものおよび国際慣用語読みのものはそれに従った。

シャンハイ 【上海】
ベキン 【北京】
メイランファン 【梅蘭芳】

- 5) 本見出しでは、かな見出しのひらがなの部分を代表的な漢字または漢字かな混じりで示し、外国語・外来語は原語のつづりを示した。

いれずみ 【入れ墨】 刺青・文身とも書く。
ウイスキー [whisky]

ただし、原語のつづりでイタリック体は、植物を属名として取り上げた場合を示す。

アロエ [Aloe]

項目の配列

- 1 かな見出しの五十音順に配列し、清音→濁音→半濁音の順とした。

{ しんくう 【真空】
しんぐう 【新宮(市)】
じんぐう 【神宮】
はい 【肺】
ばい 【蜚】
パイ [pie]

- 2 促音・拗音などの小字は直音より前に配列した。

{ じゅう 【銃】
じゅう 【自由】

- 3 長音の〈ー〉は音順から除外したが、同格の場合は長音のあるほうをあとにした。

{ あへん 【阿片】
アーヘン 【Aachen】

- 4 同音のものは次の順とした。

- a) 見よ項目→解説のある項目

{ あか 【赤】 ⇒色
あか 【垢】

- b) 普通名詞→固有名詞

{ じゅんし 【殉死】
じゅんし 【荀子】

- c) 固有名詞では地名→人名

- d) 町名などで同音の場合は北から南への順

- e) 人名などで同音の場合は生年の早い順

- 4 生物の科名・種名および岩石・鉱物・元素・化合物などのうち、教科書・専門書でかたかなの表記が慣用になっているものは、それになった。ただし、生活語として成語化されている語はかたかなの表記を用いない。

- 5 年代は、原則として西暦で示した。ただし、国内に関する記述の場合は、その項目の初出の箇所に年号を併記した。

- 6 外国地名の表記は、原則として文部省編《地名の呼び方と書き方》によった。人名も地名に準じた。

- 7 外国語・外来語の表記については、〈項目の見出し〉に準じた。

特別大項目

〈特別大項目〉はページを改め、各ページの上下にけい線を入れて一般項目と区別した。したがって、五十音順による項目配列の当該の位置には、その特別大項目のあるページ数を示した。

大項目の例

うちゅう

宇 宙

すべての天体とそれを含む全空間、いい
かえれば物質・エネルギーが存在する……

用字用語

- かなづかいは、歴史的かなづかいで示す必要のある場合を除き、すべて現代かなづかいを用いた。
- 送りがなは、原則として《送りがなのつけ方》(1959年内閣告示)によった。
- 漢字は、原則として《当用漢字音訓表》の範囲で用いた。ただし、固有名詞・歴史的用語・術語などは当用漢字以外のものも用い、()の中にその読み方をひらがなで示した。

人口統計の数値

- 日本の都道府県市町村の人口は、自治省行政局編《昭和55年版住民基本台帳に基づく全国人口世帯数表》によった。ただし、10,000以上の場合は100の位で、10,000以下の場合は10の位で四捨五入した。
- 都道府県市の産業三大別人口比(農林水産業などの第1次産業、鉱業・建設業・製造業などの第2次産業、商業・金融業・運輸業・サービス業などの第3次産業の人口の割合)は、総理府統計局編《昭和50年国勢調査報告》によった。
- 外国およびその地域・主要都市の人口は、主として国際連合編《人口統計年鑑1975年版》によったが、他の資料によって補ったところも多い。

地 図

- 日本の都道府県と8地方、世界の独立国と6大州には多色刷り地図を設け、また日本の大都市や国立公園などには観光の便などを図って考案した地図が設けてある。
- 地図の記号は一般の地図記号に準じているが、都市記号の人口による段階は各図に凡例がつけてある。
- 都道府県と独立国の地図の地貌表現は、等高線段彩で示した。しかし、全貌をとらえやすくするために等高線示度を図によって変えてあり、その数値は各図中の等高線上に記入してある。
- 地図中の地名の表記は、本文の地名表記の基準に従った。

た。

符号・記号

解説文中に用いた、おもな符号・記号は次のとおりである。

⇒ 指示した項目にこの項目の解説があることを示す。

かんさいべん 【関西弁】 ⇒ 方言

しょせき 【書籍】 ⇒ 図書

サイン ⇒ 正弦

ジンフィズ ⇒ カクテル

→ 解説文中または末尾につけて、参照・関連項目を示す。

抽象主義(→アブストラクト-アート)は、
従来の漢方(→東洋医学)を背景としたもの

あいいろ 【藍色】 ……(解説)……。→色

* 解説文中の用語の右肩につけて、その語が項目として別に立てられていることを示す。

あんざんがん 【安山岩】 中性の火山岩^{*}。

いほうじん 【異邦人】 カミュ^{*}の小説。

【】〈〉 解説文中に中見出し・小見出しを施し、解説内容の整理を図ったことを示す。

アイヌの場合

【名称・歴史】

【生活】

【衣食】

【住居】

【風俗習慣】

【音楽】

貨幣の場合

【種類】

【制度】

【歴史】〈西洋〉〈中国〉〈日本〉

〈〉 引用文または強調する語であることを示す。

日本国憲法第9条に〈日本国民は、正義と ……

戦没者の塔や〈ひめゆりの塔〉などがあり、 ……

《》 書名・曲名・題名を示す。

《日本書紀》

《カルメン》

() 語句の言い替え・補足説明や、年号の併記などを示す。

す。

病変米(黄変米)

燃料ガス(都市ガス)

慶長年間(1596～1614)

1872年(明治5)

() 読みがなであることを示す。

石川啄木(たくほく)

伊豆(いず)半島

香港(ホンコン)

科学記号・略符号

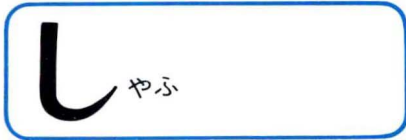
本事典では、次の範囲で単位記号・略符号を用いた。ただし、必要に応じてこれら以外のものも用いた。

mμ	ミリミクロン	cal	カロリー
μ	ミクロン	Cal	大カロリー(栄養学で)
mm	ミリメートル	℃	セ氏温度
cm	センチメートル	°K	絶対温度
m	メートル	A	アンペア
km	キロメートル	V	ボルト
cm ²	平方センチメートル	W	ワット
m ²	平方メートル	kW	キロワット
km ²	平方キロメートル	kWh	キロワット時
cm ³	立方センチメートル	km/秒(分, 時)	速さ
m ³	立方メートル	%	パーセント
cc	1/1000リットル	‰	パーミル
ml	ミリリットル	ppm	ピーピーエム
l	リットル	mmHg	水銀柱ミリメートル
g	グラム	pH	ピーエイチ
kg	キログラム	° ' "	度・分・秒(角度・緯度・経度)
t	トン		

装丁 田中一光

特別大項目目次 第6巻

宗教改革	22 (ページ)	東京大学助教授	有賀 弘
書	92	京都市芸術大学名誉教授	中田勇次郎
		国士舘大学教授	春名好重
証券市場	111		(株)日東証券調査部
小説	124	大東文化大学助教授	長崎勇一
		東京都立大学助教授	今村与志雄
情報産業	146	東京大学助教授	香内三郎
城	200		日本城郭資料館
		明治大学教授	小室栄一
進化	212	東京教育大学助教授	大森昌衛
神経症	227	慈恵医科大学講師	岩井 寛
新興宗教	235	東京大学名誉教授	小口偉一
人種問題	250	アメリカ研究所所長	陸井三郎
神道	268	国学院大学教授	安津素彦
新聞	276	中央大学教授	佐藤智雄
税	400	電力中央研究所	西野義彦
精神分析	430	慶応義塾大学講師	小此木啓吾
西洋音楽	454	国立音楽大学助教授	徳丸吉彦
世界企業	462	慶応義塾大学助教授	深海博明
世界貿易	470	慶応義塾大学助教授	福島義久
石油化学工業	486	東京工業大学教授	原 伸宜
		青山学院大学教授	原 豊
禪	520	駒沢大学助教授	奈良康明
選挙	528	立正大学教授	鈴木安蔵
戦争	546	軍事評論家	関野英夫



シャープ ⇒嬰(ゑい)記号

しゃふつしょうどく【煮沸消毒】微生物が加熱に弱いことを利用して、沸騰している熱湯中で滅菌する方法。注射器・ピンセット・メスなど加熱に耐える器具の消毒に用い、10～15分以上煮沸する。一般の細菌は数分で死滅するが、芽胞は1～2時間、ある種の土壌(どじょう)菌の芽胞は16時間煮沸しても生き残っているものもある。炭酸ナトリウムを1%加えたと芽胞の破壊を促し、滅菌器具のさびの発生を予防する。ふつうシンベルブッシュ消毒器が利用される。

〔和気 朗〕

シャフツベリ [1st Earl of Shaftesbury] (1621～1683) イギリスの政治家。本名アンソニー・アシュレー・クーパー。ピューリタン革命で王党派に属し、のち議会派、また長老派と転々。クロムウェル派に反対してチャールズ2世の王政復古に奔走。ホイッグ党のリーダーとして反カトリックの立場をとり、王弟ヨーク公(のちジェームズ2世)の王位継承に反対してモンマス公の陰謀に荷担し、反逆者として逮捕された。1682年オランダに亡命、同地で没した。

〔松下京子〕

シャフツベリ [3rd Earl of Shaftesbury] (1671～1713) イギリスの道德哲学者。本名アンソニー・アシュレー・クーパー。ロンドンの名門貴族の3代めとして生まれた。幼時より古典を学び、美学・倫理学・歴史などの面で業績を残す。精確な推論よりも優雅な文体を好み、18世紀の文人に大きな影響を与えた。きわめて寛容な宗教思想をもち、全体としての世界は神によって調和のとれた秩序を与えられており、美にして善かつ真なる世界であると説く。人間の認識は自己理解に基づき単に利己的なものではなく、社会意識をもつとしてホッブズを批判した。宗教と道德の分離は可能だとし、社会的利益をめざす徳を決定する道德感覚(モラルーセンス)は生得であると説いた。主著『人間・習俗・世論・時代の諸特質』。

〔玉井 治〕

ジャフナ [Jaffna] セイロン島の北端にある同島第2の都市。人口112,000(1975)。ジャフナ半島に位置する良港で、ポーク海峡を隔ててインド半島に近接している。この地方はセイロンでも雨が少ないが、地下水に恵まれて人口は密である。ココヤシの実やタバコの集散が盛んで、紡織も行なわれている。

シャープペンシル [eversharp pencil] しんだけを繰り出して使用し、しんを補充できる機械鉛筆。1837年アメリカでエバー

シャープという商標で発売されたのが最初。わが国では1904年(明治37)東京の向島に小規模の工場が設立されたのが最初で、1916～1917年(大正5～6)ごろから工業化され始めた。おもな種類としては、ノック式・回転繰り出し式のほか多色(3色または4色)のフリーオートマチック式がある。軸は金属・プラスチック製などが多くつくられている。

〔三菱鉛筆(株)〕

シャプリー [Harlow Shapley] (1885～1972) アメリカの天文学者。ミズリーおよびプリンストン大学で学び、特に後者ではW. ラッセルの教えを受け、そこで学位を得た。1914年から1921年までウィルソン山天文台で星団、ことに球状星団の研究を行ない、銀河系の大きさ・形などを明らかにした。1921年ピッケリングのあとを受けてハーバード天文台長となり、1952年まで在職。銀河系外星雲についての研究も多く、天文学以外の学術体制の問題などについても尽力した。

〔根本順吉〕

シャブリユ [Alexis Emmanuel Chabrier] (1841～1894) フランスの作曲家。幼時から音楽好きであったが、親の勧めに従って法律を学び、内務省の官吏となった。しかし、音楽への愛着を捨てきれず、法律の勉強をするかわらピアノ・作曲を学び、創作を試みた。二つのオペレッタ《星》《教育不足》の成功に刺激されるとともに、ワーグナーの《トリスタンとイゾルデ》に衝撃を受け、1880年には職を辞して音楽活動に

専心した。そして、スペイン旅行の直接の所産である狂詩曲《スペイン》で決定的成功をおさめ、作曲家としての確固たる地歩を築いた。19世紀後半の作曲家のひとりとしてワグネリアンとなったが、その本領はドラマチックなものよりも、むしろ自発性と機知に富んだ小曲にある。彼の音楽は、アマチュアとして出発したせいもあって、アカデミックな因襲にとらわれない生き生きとしたリズム、新鮮な和声、色彩的な管弦楽によって特徴づけられる。おもな作品には上記のほか、オペラ《グウェンドリーヌ》、ピアノ曲《10の絵画的な小曲》、《ブルーファンタスク》などがある。

〔寺田兼文〕

シャープール [Shāpūr] イランの南西部、カゼルーンの近くにあるササン朝遺跡。現在ビーシャープールとよばれる。シャープール1世の建設した切り石積み、ゾロアスター教寺院や宮殿跡があり、北方の峡谷にはササン磨崖(まがい)浮き彫りがある。

シャープール(1世) [Shāpūr] ササン朝ペルシア第2代の王。在位241～272年。父アルダシール1世を助けてササン朝興隆の基礎を築き、次いで即位してローマ帝国に戦勝し、また東のクシャーン朝を征服して領土を拡大した。王朝最大の武将のひとりであり、また都市の建設者であった。ゾロアスター教を信ずるとともに、新興のマニ教に親しみ、そのため領内にマニ教勢力が一時栄えたが、のちにこれを禁圧して国外に追放した。

〔小谷仲男〕

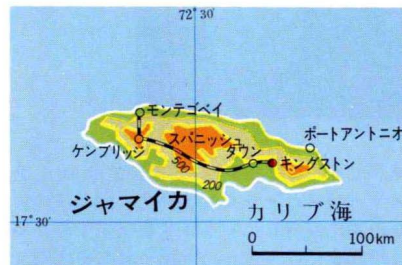
シャーベット [sherbet] アラビア語のシャルバトが語源といわれ、水果汁(かじゅう)または凍果汁と訳される。果汁を主材料にしてシロップ・酒・白ぶどう酒などを調合しフリーザーにかけて固めたもので、糖分を少なくしたもの、果汁のみでつくったもの、主として酒でつくったもの、さらにクリームを合わせたもの、なおそれにあわ立てた卵白を加えて軽い味にしたものがある。

しゃぼん【写本】⇒書写本

ジャマイカ [Jamaica] 西インド諸島西部、カリブ海上の同名島を占めるイギリス連邦に属する共和国。面積10,962km²、人口219万(1978年推)、首都キングストン。

【自然・住民】北西から南東に走るアンチル系の褶曲(しゅうきよく)山地を骨格にその周囲に隆起サンゴ石灰岩が附着し、肥沃(ひよく)な盆地がある。東部の山地には、コーヒーの名で有名なブルー山(2,250m)がある。気候は熱帯にあるが貿易風帯にあって比較的健康な土地であり、キングストンの年平均気温は27.1℃で雨は夏に多い。住民の大部分はアフリカから労働者として移住した人々の子孫であるニグロと、ニグロとインディオの混血であるミュラートが大部分を占め、白人は人口の1%にすぎない。

【産業・経済】耕地は国土の約15%、牧地は21%にすぎず、主要農産物はサトウキビ・バナナ・コーヒーである。サトウキビは一



● 300万人以上の都市 □ 100～300万人の都市 ○ 50～100万人の都市
◎ 10～50万人の都市 ◆ 5～10万人の都市 ○ 5万人未満の都市 ● 首都 ● 油田



ジャマイカの国旗 1962年制定。緑は国土と天然資源、黒は全人口の98%を占める黒人と混血人、黄色は太陽・国富・繁栄を表わすとされるが、黒は永年の圧制を表わすとも説明されている

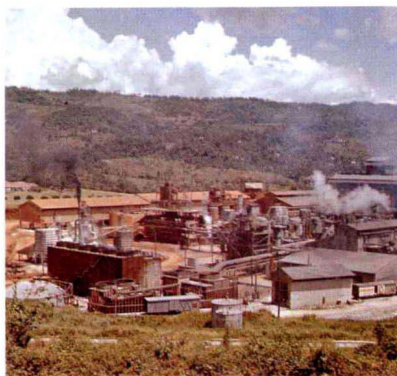
時不振であったが、近年再び重要作物となった。バナナはかつて世界一の輸出量を誇ったこともあったが病害のため衰退した。鉱産物ではボーキサイトの採掘が盛んで、1953年以来急速な発展を示し、1959年には輸出量520万7,000 tで世界一、アメリカ合衆国系2社とカナダ系1社の経営である。輸出額の35%は砂糖とバナナで、49%がボーキサイトである。また、1959年のキューバ革命以来、アメリカ人観光客がふえ、1960年には25万の観光客があり、観光業は農業・鉱業に次ぐ産業となった。ボーキサイトの輸出や観光客など、アメリカとの経済関係が密接である。首都キングストンは最大の貿易港で、港町のモンテゴベイと鉄道が通じている。

【歴史・政治】1494年コロンブスによって発見され、スペインの植民地となったが、17世紀から約3世紀間イギリスの支配のち、1962年8月共和国として独立し、イギリス連邦に属した。〔小栗 宏〕

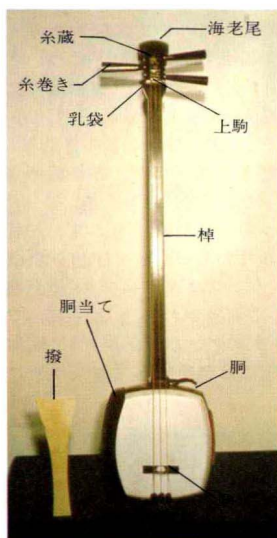
シャーマニズム [shamanism] シベリアおよび中央アジア北部の諸民族に典型的な形で存在する広義の宗教現象。宗教的忘我(エクスタシー)を恣意(しい)的に統御する能力をもつシャーマン(巫覡(ふけき))が、神霊との仲介者として中心的役割を演ずる。シャーマンの最大の機能は巫医として病気を診断・治療する点にあるが、葬儀・供儀の司祭や占いなどにも関与することが多い。セアンス、つまりシャーマンの儀式は、通常太鼓を打って誘導される忘我、その際体験する守護霊の憑依(ひょうい)と他界遍歴、託宣などの要素を含む。シャーマン職への就任は世襲か自発的な精霊の召命によるが、いずれの場合も入巫前に精神分裂症緊張型に近似した症状(シャーマン病)を経過すること、緊張病様の昏迷(こんまい)と回心後の急速な回復は、イニシエーションの死と再生という主題に密着するものと思われる。また、天界と地界に及ぶ樹木(世界木)を中心とする世界観、動物を支配する主の観念、魂の喪失による疾病観(しっぺいかん)などはシャーマニズムと不可分の関係にある。シャーマニズム的要素を含む現象は北アメリカインディアンをはじめ世界各地に存在し、わが国の東北地方の(いたこ)もその例。なお、シャーマンはツングース語samanに由来する。〔和田 完〕

シャーマンごうじけん 【シャーマン号事件】 朝鮮、李朝(りちょう)末のアメリカ船焼き打ち事件。1866年8月、シャーマン号は朝鮮開国の目的をもって平壤(へいりょう)へ進んだ。朝鮮側の退却命令に応ぜず、かえって発砲したため、憤激した朝鮮側に船を焼かれ、乗員は虐殺された。その後、1871年アメリカは再び侵略を図るに際して、この事件の終着をつけようとして江華島を占領したが、やはり撃退された。

シャーマンはんトラストほう 【シャーマン反トラスト法】 1890年制定されたアメリカ最初のトラスト規制法。1870年代以後急速に進化したトラストを禁止するため、各州間または外国との営業・通商を制限する企業合同・共同謀議、もしくは独占や独占の企図を禁止した。しかし、〈独占〉〈営業の制限〉などの用語の定義がなく違反事件の審議に時間がかかり、罰金が軽少であったため、同法の実効は上がらず、1898年から1902年にかけては独占の最盛期を迎えた。一方、1894年プルマン会社のストライキに対して輸送妨害と州際商業の制限を理由に同法が適用され、以後労働争議を共同謀議として労働運動を抑圧した。なお、本法補強のため、1914年クレイトン反トラスト法が制定された。〔折井一彦〕



ジャマイカ アルミナ精製工場(マンデビル附近)。ボーキサイト鉱山やアルミナ工場はほとんどアメリカ合衆国の大企業に支配されている



三味線
太棹の各部
名称

マン反トラスト法 1890年制定されたアメリカ最初のトラスト規制法。1870年代以後急速に進化したトラストを禁止するため、各州間または外国との営業・通商を制限する企業合同・共同謀議、もしくは独占や独占の企図を禁止した。しかし、〈独占〉〈営業の制限〉などの用語の定義がなく違反事件の審議に時間がかかり、罰金が軽少であったため、同法の実効は上がらず、1898年から1902年にかけては独占の最盛期を迎えた。一方、1894年プルマン会社のストライキに対して輸送妨害と州際商業の制限を理由に同法が適用され、以後労働争議を共同謀議として労働運動を抑圧した。なお、本法補強のため、1914年クレイトン反トラスト法が制定された。〔折井一彦〕

しゃみ 【沙弥】 仏弟子(ぶつでし)七衆の一。梵語(はんご) śrāmaṇera(シラマナー)の音写。具足戒を受けるまでの、20歳未満の男子の出家者。サンガ(僧伽(そうぎや))。宗教的生活共同体)の正規の成員でないため、比丘(びく)僧伽に所属する。また、20歳未満の

女子の出家者はシラマナーリカーといい、沙弥尼と音写され、比丘尼僧伽に所属する。

ジャーミストン [Germiston] 南アフリカ共和国のトランスバール州にある都市。人口21万(1970)、ヨハネスバーグの東に位置し、ウィットウォーターズランド金鉱地帯の中心都市で、世界最大の金の精練所がある。鉄道交通の要地で、ナタール州・ケープ州の諸港と結ぶ鉄道が集まっている。

しゃみせん 【三味線】 日本の代表的な弦楽器。16世紀後半、おそらく琉球(りゅうきゅう)を経由して中国から伝えられた。17世紀以後は、芸術音楽や各地の民俗音楽で広く用いられている。構造は比較的簡単で、ネコあるいはイヌなどの皮を両面に張った胴と棹(さお)が組み合わされたもので、棹の上方に3本の糸巻きがあって、弦の張力を加減する。棹と糸巻きの間には上駒(かみこ)という金属片があるが、これに糸がのるのは、第2弦、第3弦(低いほうから数える)で、第1弦ははずれていて、音色の上で別の効果をもつ。胴皮の上にも駒があるが、駒の大きさや重さに種類があり、曲種と目的により選ばれ、これも音色に関係する。高音域で使用するためには枷(かせ)という木(骨)片を棹の途中に縛って弦を止める。なお、楽器の大きさを棹の太さによって、太棹(義太夫節(ぎだゆうふし))・中棹(清元節(きよぎん))・宮蘭節(みやそのふし)など)・細棹(長唄(ながうた))・小唄(こ唄)など)とよんで区別し、各流派にかなったものが使用される。また、右手にもつ撥(はち)にも大きさと形態にいくつかの種類がある。撥のおもな奏法は、上から下にあてる通常のひき方、弦を下から上へすくうスクイなどがあり、また左手のピッチカートであるハジキ、左手の微妙なグリッサンドであるスリあるいはコキなどが重要である。

三味線音楽には多くの様式と流派があり、それぞれにパターンを形成する一方、それらを相互に交換している面もある。音色や音量変化が様式によって異なるだけでなく、音程の好みも、たとえば義太夫節と長唄の場合のように大きく違っていることもある。しかし、おもな調弦法(本調子・二上がり・三下がりなど)が共通であることからわかるように、よく使われる音や重要な音は共通である。また、調弦を変えたり、ゆるみがちな弦を合わせるために開放弦の音を楽曲の中に組み込んでいいる点は、三味線音楽の特徴であろう。なお、楽器の改良は第2次世界大戦前はかなり行なわれたが、今日では定着している。〔徳丸吉彦〕

しゃみせんがい 【三味線貝】 触手動物・腕足類・シャミセンガイ科・シャミセンガイ属の総称。動物体は2枚の殻(から)(リン酸石灰質)で包まれ、体後方から殻の外へ長い柄(肉莖)が突き出ている。どろの海底にもぐって生活する。日本では、殻長(かちょう)4 cm、殻幅2 cmほどの緑かっ色の殻をもつミドリシャミセンガイ、殻長6 cm、殻

幅3cmほどのかっ色の殻をもつオオシャミセンガイなどが発見されている。ミドリシャミセンガイは、中部日本以南、中国・マライ半島・フィリピン沿岸・インド洋水域に広く分布し、内湾の低潮線付近から深さ50mほどの泥底(でい)にすむ。かつては豊富にとられ、食用にもされていたが、内湾の環境汚染のため、わが国からはしだいに姿を消しつつある。オオシャミセンガイは、山東半島・有明海で発見されたが、有明海では近時は発見されておらず、絶滅を懸念されている。シャミセンガイの名は、四角い本体に長い柄がついているところからつけられた。この類は古生代オルドビス紀から現在までほとんど姿を変えておらず、〈生きている化石〉として知られる。

〔菅野 徹〕

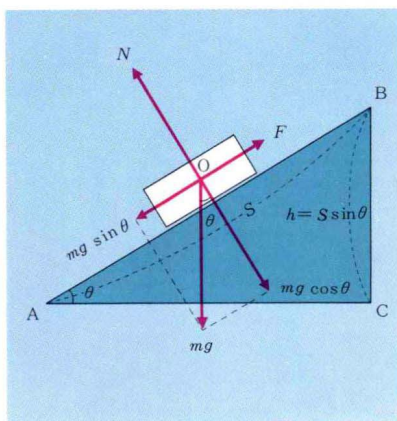
シャミッソー [Adelbert von Chamisso] (1781～1838) ドイツの小説家・詩人・自然科学者。亡命フランス貴族の子。悪魔に影を売った男を主人公とした《ペーター・シュレミール》は有名で、ドイツ士官として生国フランスと戦わねばならなかった彼自身の苦悩を告白したものともみられる。ロマン主義的な作風の作家であり、詩では《女の愛と生涯(しょうがい)》などのほか、社会的・政治的な問題を取り上げた作品もある。

シャム ⇒タイ(国)

シャム(湾) [Siam] インドシナ半島南部とマライ半島とに囲まれる湾で、南シナ海の西端をなす。東岸はカンボジア・ベトナム共和国南部、北と西岸はタイ国領である。北岸にメナム川が流入し、これをさかのぼるとタイ国の首都バンコク(クルンテプ)がある。湾内は浅海で、大部分が水深50m以下である。

ジャム [jam] イチゴ・リンゴ・ブドウ・イチジク・アンズ・クワなどの果実の果肉に砂糖を加えて煮沸濃縮した食品。パンにつけて食し、また菓子の材料とする。原料を洗って皮をむくものはむき、核をとるものとはって、砂糖を加え、なるべく低温で煮詰めると、果肉の酸とペクチン、加えた糖が加熱されることによってゼリー化し凝固する。砂糖の分量は、材料の甘味や酸味によって異なるが、材料の5割ないし10割が普通である。なお、つぶした状態で製品化したものをジャムといい、果形を残したまま凝固させたものをプレザーブとよんでいる。〔佐藤友太郎〕

ジャム [Francis Jammes] (1868～1938) フランスの詩人。生地ピレネーで生涯(しょうがい)の大半を過ごし、その田園的・牧歌的な風物を描き続けた。初期の詩集《朝の鐘から夕べの鐘へ》における叙情性は、19世紀末の象徴主義の風潮に清新な感動を与えた。晩年にはカトリックに帰依し、宗教性の濃い詩も書いた。《キリスト教徒の農牧詩》などの詩集のほか、小説・回想録がある。



斜面



シャモニー ホテルやレストランの立ち並ぶシャモニーの町かど。モンブランをはじめとするフランスアルプスの山々がまわりを取り囲む

ジャムシェドプール [Jamshedpur] インド共和国東部、ビハール州にある都市。人口35万7,000(1971)。スバルナレカ・カルカイ両川の合流点にある。インド最大の鉄鋼業都市で、1907年にタタ財閥の経営する大製鉄所ができてから発展した。各種鉄鋼製品を産出し、国立冶金(やきん)研究所も置かれている。

シャムそうせいじ 【シャム双生児】 主としてヒトにおいて、一卵性双生児の身体の一部が互いに癒着(ゆあく)し、連絡している二重体(重複奇形)の俗称。結合部位名に〈結合体〉の字を付して、その諸型を表わしている。この名は、1875年にペンコーストが報告したタイ(旧称シャム)のチャンとエン兄弟(1811～1874)(胸結合体の軽微な場合である剣状突起結合体)に由来し、この兄弟が長命を保ち、有名だったことから一般名となったわけである。彼らは32歳で結婚したが、別々の家に住み、一定期間ごとに両家で交替に生活した。ヨーロッパへ見せ物に出かけて金をもうけ、63歳で死亡した。片方が死亡した場合身体のどこかで連絡しあっているため、死毒がもう一方には

いり、必然的に死に至る。最近では、分離手術が発達し、それが成功した例も多くみられる。

〔平野修助〕

しゃめん 【斜面】 水平面に対し傾斜した面。水平面となす角を傾角という。物体を高い所に持ち上げる場合、傾角θのなめらかな斜面をつくり、その上に質量mの物体を置けば、この物体に作用する重力の斜面方向の分力は $mg \sin \theta$ であるから、これよりわずかに大きい力を斜面に沿って上向きに加えれば、物体を斜面に沿って引き上げることができる。このため、斜面は古くから重い物体を高い所へ運び上げるのに利用された。なお、くさびやねじも斜面の応用である。

〔山正孝〕

しゃも 【軍鶏】 ニワトリの品種。タイ原産の肉用種で、日本には徳川時代の初期に輸入され、主として闘鶏用に改良されたが、肉質もきわめてよい。その羽色により、黒・白・狸々(しやうじょう)・赤笹(あかさ)・金笹・銀笹などの内種に分けられる。体重は雄4.5kg、雌3.7kg、三枚冠で肉髯(にくせん)は短く、体羽は少なくしまりもよい。

シャモア [chamois] 哺乳(ほにゅう)類・偶蹄(ぐてい)目・ウシ科。雄は頭胴1.2m、尾13cm、肩高77cmほど、雌はこれよりやや小形。夏毛は短く橙(とう)かっ色、冬毛は長く黒かっ色。角は雌雄ともにあり、先は鉤(かき)状に曲がり、雄のものは長さ23cmに達する。眼下腺(がんかせん)はないが、雄には角の後ろに1対の独特の腺がある。ヨーロッパのピレネー・アルプス・カフカスなどの高山に群れですみ、森林を好む。アルプスカモシカともいう。

シャモットれんが 【シャモット煉瓦】 ⇒れんが

シャモニー [Chamonix] フランス南東部、モンブラン山北麓(ほくろ)の標高約1,200mに位置する町。人口8,000(1962)。モンブラン登山の基地とウインタースポーツの中心で、夏冬を通じて年間15万人を越える観光・登山客が訪れる。国立スキー登山学校や陸軍高山学校などもある。1924年には冬季オリンピック大会が開催された。

しゃもん 【沙門】 梵語(はんご) śramaṇa (シラマナ)に由来する西域地方語の音写と考えられている。髪をそり、あらゆる悪・不善を行なうことなく、心身を制御して善を修め、悟(さと)りに達しようと努力する出家をいう。特に、紀元前6世紀ごろガンジス川の中流地方でバラモンに対立して興った革新的思想家の総称。彼らは一所不住の遍歴をしながら森林で修行し、村や町に出て教えを説き、説法の報酬として布施(ふせ)される食物を生活のかてとした。その生活の外形から、遊行者(ゆぎやうしや)・遁世者(とんせいしや)・苦行者・行乞者(ぎやうつめ)などとよばれた。彼らは多くの弟子(でし)を擁してサンガ(僧伽(そうが))。宗教的生活共同体)を形成した。仏教も沙門のサンガの一派であった。なお、

中国・日本では仏教の出家者をいう。

〔塚本啓祥〕

じゃもんがん 【蛇紋岩】 大部分がジャモン石で構成されている超塩基性岩。たいていはカンラン岩が500℃以下で水と反応して変質したものと考えられる。帯緑黒色で比重大きく、割れ目の面は光沢の強い曲面になっていることが多い。造山帯の褶曲(しゅうきよく)構造に平行に、雁行(がんこう)状に配列したレンズまたは岩床として産出することが多い。ジャモン岩のうちには、炭酸塩鉱物の白い網状細脈が美しい模様をつくっているものがあり、みがいて装飾用の石材に用いられる。またリン鉱と混ぜて1,450℃に加熱すると溶融し、これを水中で急冷したものは溶成リン肥となる。溶成リン肥はクエン酸可溶性リン肥で、塩基性であるため、酸性火山灰系土壌(どじょう)に適している。ジャモン岩はまた、アスベスト・クロム鉱・ニッケル鉱などの鉱床を含むことがある。

〔片山信夫〕

じゃもんせき 【蛇紋石】 マグネシウムの層状含水ケイ酸塩鉱物のグループ名で造岩鉱物の一。カオリンに似た結晶構造をもち、アンチゴライト・リザダイト(板状)・クリソタイル(繊維状)などが属する。一般的な化学式は $Mg_6Si_4O_{10}(OH)_8$ 。鉄・ニッケル・マンガンがときに含まれる。一般的には単斜晶系。比重2.5～3.0、硬度4～6、劈開(へきかい)はときに完全であるが、ふつうは認められない。屈折率1.53～1.57、ろうのような感じがある。ふつう暗緑色、鉄が少なくと黄・かっ色を経て灰色の塊状もしくは繊維状を呈する。塊状のものはしばしばヘビの皮のような模様を呈する。繊維状のものはクリソタイルからなり、アスベストとして工業用に用いられる。ジャモン石はカンラン石・キ石などマグネシウムケイ酸塩鉱物の低度～中度の変成作用による変質によって2次的にできる。ときにニューカレドニアやキューバのように数千平方キロメートルにわたって産することもある。装飾石材・耐熱材・リン酸肥料原料としても用いられる。

〔加藤敏郎〕

しゃよう 【斜陽】 1947年(昭和22)発表の太宰(だざい)治の中編小説。母・姉かず子・弟直治・小説家上原が主要な登場人物で、姉の独白を通して、没落した貴族の運命と哀愁が描かれていく。4人はいずれも作者の分身とみなされ、特に弟直治は、貴族にも民衆にもなりきれずに自殺してしまう悲惨さを背負う。

じゃらい 【射礼】 平安時代以降宮廷で行なわれていた正月17日の射術の儀式。大射ともいう。正月15日に兵部省(ひょうぶしょう)では親王以下五位以上の官人および左・右近衛(このえ)、左・右兵衛、左・右衛門の射手を整えて順番を定め、17日に建礼門前で行なわれた。当日、天皇はまず豊楽院(とらくいん)に御幸があり、行事終了後に群臣に宴を



舍利塔 《金銅透彫舍利塔》 西大寺藏

賜い、能射者(射術の優秀者)に禄(ろく)というほうびを給することになっていた。

しゃらのき 【沙羅樹】 ⇨ナツツバキ

シャラーフ-アル-ディーン [Sharaf al-Din Ali Yazdi] (?～1454) ペルシアの詩人・歴史家。エズドに生まれ、チムール朝のシャー-ルフおよびその子ミルザイブラヒム-スルタンの寵臣(ちゆうしん)であった。チムールの事跡を扱った《ザファル-ナーマ(戦勝の書)》の著者。

しゃり 【舍利】 梵語(はんご)śarīra(シャリーラ)の音写。元来は身体を意味する語であったが、ブッダの入滅以来、身骨をさすことばとして知られ、特にブッダの遺骨に限定して用いられるようになった。後世ブッダのつめ・髪や経巻までをいう場合がある。その形が米粒に似ているところから、米粒・米の飯をいうようになったと俗に伝えられているが、米の飯などを意味するśālī(シャリー)も舍利と書くので、これの誤伝かもしれない。なお、アオサギの一種で、インド神話によく出る鳥も舍利というが、これは梵語śārī(シャリー), śārīka(シャリーカ)の音写。〔石上善応〕

しゃり 【斜里(町)】 北海道、網走(あはしり)支庁の東部、斜里郡にあり、日本の北東端にあたる町。1939年(昭和14)町制施行、1943年南西隣の清里村(のち清里町)を分村した。人口16,000。町名はアイヌ語の〈シャル〉(アシの原)にちなむ。オホーツク海に面し、町域は知床(しれとこ)火山群の藻琴(もこと)山・斜里岳から発してそれぞれ北流する斜里川(うしろ)・猿間(さるま)川のつくる斜里平野と知床半島の西斜面を含み、面積742km²に達する。平野部では飼料用作物・テンサイ・ジャガイモなどの畑作が行なわれ、半島部の宇登呂(うしろ)を中心に漁業が盛んで、サケ・マス・イカなどの水揚げが多い。釧網(せんもう)本線・国道244号線(斜里国道)に沿い、知床国立公園の観光基地となり、知床五湖・斜里海岸草原集落(天然記念物)などの景勝地に富む。夏季には宇登呂から知床半島を

1周して東岸の羅臼(らうす)に至る観光船が発着する。

ジャリ [Alfred Jarry] (1873～1907) フランスの詩人・劇作家。さまざまな奇行と早熟な才能で20世紀フランス文学に予言的な新しき風刺を吹き込み、虚飾と偽善に満ちた現実をのろってこれに反抗した。詩集のほかにも多くの戯曲があるが、特に《ユビュ王》は近代演劇の変革を迫るもので、ダダイズムやシュルレアリスムに大きな影響を与え、アンチ-テアトルの先駆的作品とされる。

シャリアピン [Feodor Chaliapin]

(1873～1938) ロシアのバス歌手。農民の出身で、正規の音楽教育を受けていないが、天性の美声によって徐々にその評価を高めていった。1896年マモントフ歌劇団の《ボリス-ゴドノフ》で大好評を収め、1901年にはスカラ座、1909年にはメトロポリタン歌劇場、1913年にはコベント-ガーデン座に出演、圧倒的な人気を集めた。1936年来日。

しゃりとう 【舍利塔】 舍利を奉納・安置する塔。その起源は、弟子(でい)によって荼毘(だひ)に付されたブッダの舍利が、マガダ国のアジャセ王ほか8国の王によって造立された八塔に奉安されたことにあるという。アショカ王の時代、84,000の塔をつくってこの舍利を奉納したが、この風潮が中国を経てわが国にも伝わり、仏に対する功德の一つとして舍利納置の塔が盛んに造立された。わが国最初の舍利塔は《日本書紀》に示す585年(敏達14)蘇我(そが)馬子によって大野丘につくられたものであるとされる。以後、法隆寺五重塔をはじめ、奈良時代初期までの寺院には舍利を奉安するのが通例であった。しかし、真正な仏舎利の分骨には限度があり、瑪瑙(めう)・水晶などの宝玉類をこれに代えて納置するのが大部分である。一時衰微した舍利信仰が再び興隆をみせるのは、平安時代末から鎌倉時代初頭における奈良の戒律復興運動の時期である。浄土教の隆盛に刺激されて凋落(ちようらく)した南都仏教を救うのは釈迦(しやか)の教えにかえることであるとする釈尊信仰と結びついて、小塔形式の舍利塔が数多くつくられた。その中には工芸的にすぐれた遺品が多い。法隆寺献納宝物中の〈保延四年(1138)銘を有する宝塔形舍利塔は小塔形式最古の紀年銘優品であり、西大寺の金銅透彫舍利塔は金工技法の粋を尽くした代表作である。舍利塔はその形により宝塔形(多宝塔形)・宝珠形・五輪塔形に分類され、鎌倉時代末から室町時代にかけては、金銅板の透彫舍利塔形を中板に嵌装(かんそう)した舍利厨子(ずし)も多くつくられた。〔河田 貞〕

しゃりほつ 【舍利鉢】 ⇨サーリブツタ

しゃりんばい 【車輪梅】 双子葉植物・バラ科。暖地の海岸の岩やがけの上に自生する常緑低木で、高さ1～2m。庭木としても用いられる。葉は互生し、倒卵形で低

い鋸歯(きょし)があり、長さ3～8cm、車輪状に枝先につく。4～5月、枝先に白色で直径1～1.5cmの五弁花を多数円錐(えんすい)状につける。果実は球形で黒熟する。樹皮・材・根に含まれるタンニンは大島紬(おしまつむぎ)などの染料に用いられる。

シャルル ⇨ アダム-シャルル

シャルル [René Char] (1907～) フランスの詩人。最初シュルレアリスム*の運動に参加、初期の詩集には自動記述法(オートマチズム)による奔放なイメージの詩編が多い。のち、スペイン内乱や第2次世界大戦で抵抗運動の指導者として活躍、その体験によって男性的詩人へと変貌(へんぼう)し、大胆なイメージと人生体験から直接的に噴出する言語とが融和したアフォリズムふうの簡潔な作品を書く。代表作《イブノスの手帳》《砕かれた詩》など。〔森 英樹〕

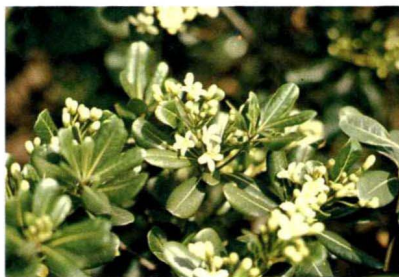
シャルコ [Jean Martin Charcot] (1825～1893) フランスの神経病学者。パリに生まれる。パリ大学で医学を学び、1853年に卒業。1856年パリ病院の医師となり、1862年サルペトリエル病院に転じ、慢性疾患・老人病、神経系統の疾患などについて診療・講義を行なう。1872年から10年間、パリ大学病理解剖学教授の職にあり、1882年サルペトリエル病院に新設された神経病科の教授に任ぜられた。多くの研究論文を発表したが、なかでも脊髄(せきずい)系統疾患に関するものは最も重要。〔大島蘭三郎〕

シャルダン [Jean Chardin] (1643～1712) フランスの旅行家。1665年ベルシアに旅行し、首都イスファハンの王宮で宝石鑑定家として仕えた。いったん帰国したが、翌年クリミア・カフカス地方を旅行し、1673～1677年には再びイスファハンに出かけた。のち、プロテスタントに対する迫害のためフランスからイギリスに移住し、宮廷出入りの宝石商となり、サーの称号を受けた。

シャルダン [Jean-Baptiste-Siméon Chardin] (1699～1779) フランスの静物画家・風俗画家。素朴(そぼく)な庶民の生活の中にテーマを求め、鋭くしかも表現に富む豊かな色彩と単なる事物の配列には終わらない緻密(ちみつ)な構成を用い、ブーシェに代表されるルイ16世時代のロココ趣味とは対立した。1728年に《あかえい》《食器だな》を発表してアカデミーの会員となる。晩年にはパステルで《自画像》《妻の肖像》などの肖像画を描いた。〔酒井忠康〕

シャルドンヌ [Jacques Chardonne] (1884～1968) フランスの小説家。本名ジャック・ブーテロー。処女作《祝婚歌》以来、一貫して夫婦間の微妙な愛情の揺れを主題とし、心理や感情の動きが分析される。《エバ》《クレール》《ロマネスク》などが代表作。

シャルドンネ [Comte Hilaire Bernigaud de Chardonnet] (1839～1924) フランスの化学者。パスツールの弟子(でい)。パスツールのもとでカイコの病気について



シャリンバイ



シャルダン 《働き者の母親》 ルーブル美術館蔵



シャルル7世
ルーブル美術館蔵

研究したが、写真に興味をもち、写真材料としてコロジオンを使用する研究から、ニトロセルロース人絹の工業化に成功し、世界最初の人造繊維工場を設立した。

シャルパンチエ [Marc-Antoine Charpentier] (1634～1704) フランスの作曲家。年少のころイタリアのカリッシミのもとで音楽を学び、帰国後モリエールに誘われ、テアトル・フランセでコメディー・バレエを作曲。ジェスイット派学校の指揮者を経て、1698年パリのサント・シャペルの楽長になった。劇作品ではリュリ*に及ばないが、ミサ・詩編歌・モテットなどの宗教的作品は、ラランドと並んでこの時代を代表するものである。〔船山 隆〕

シャルマネセル [Šalmanesser] アッシリア*王の名。シャルマナサルともいう。

① 1世(?～BC1244ごろ) アッシリア中王国の王。在位BC1273～BC1244年ごろ。シリアをめぐるエジプト・ヒッタイト両国の激突に乗じてミタンニ地方に勢力を伸ばし、さらに西方へ進出する勢いをみせた。このため、エジプト王ラーメス2世*とヒッタイト王ハットゥシリシュとは一転して平和条約を結び、アッシリアの脅威に対抗することを余儀なくされた。

② 3世(?～BC824) 在位BC858～BC824年。アッシュール-ナシルバル2世の後継者。対外遠征によりアッシリア新王国の基礎を固めた。BC853年とBC845年のシリア遠征には失敗したが、この間バビロニアの属国化に成功して力をたくわえ、BC841年の第3回シリア遠征によってダマスカスを制し、パレスチナにまで侵入した。こうしてシリアにアッシリアの覇権(はけん)が確立した。北方のウラルトゥ*とも交戦した。

〔屋形禎亮〕

シャルル [Charles] フランス国王。

① 4世(1294～1328) 在位1322～1328年。端麗王ともいう。フィリップ4世の子。兄ルイ10世およびフィリップ5世に次いで即位。国内の貴族をおさえ、フランス西南部のイギリス領ギューエンヌに進出、王権強化に努めたが、男子後継者のないまま、カペー朝は断絶した。このため、従弟(いとこ)のフィリップ6世(パロア王朝)と甥(おい)にあたるイングランド王エドワード3世との間に王位継承の争いが起こり、百年戦争となった。

② 5世(1337～1380) 在位1364～1380年。賢明王ともいう。父アチエの戦いでフランス軍は大敗し、父王ジャン2世は捕虜としてイギリスに連れ去られたため摂政となった。次いで王権の強化をはかってパリ市長エチエンヌ・マルセルの反乱を招き、また1358年には農民一揆(いっき)ジャックリーの乱が起こって国内は大混乱に陥った。1364年ジャン2世が没して即位、名將ベルトラン・デュ・ゲクランを重用して軍制改革に努め、中央権力を強化し、1370年失地回復をはかってイギリスと開戦、1375年までにほとんど全国土を回復した。バスチャーユ城塞(じょうさい)を建設し、また学問の保護に留意して国立図書館を創設した。

③ 6世(1368～1422) 在位1380～1422年。親愛王ともいう。父シャルル5世の死後、12歳で即位、20歳までブルゴーニュ公らの後見を受ける。1388年から親政、諸侯を退けて父王の側近を重用し、パリの上層市民層と結んだ。しかし、逸楽にふける王妃イザボード・バビエールに対する心痛もあって1398年ブルターニュ遠征の途中マンスの森で脳を病み、宮廷は混乱し、国内は分裂した。こうして内乱状態にあったフランスに、イングランド王ヘンリー5世が侵入、

アジャンクールの戦いに大敗したフランスは1420年屈辱的なトロア条約を結び、国土の大半を失った。王妃イザボアの要請で、狂王は娘カトリーヌとの結婚を条件にヘンリー5世に王位継承権を与えた。

④ 7世(1403～1461) 在位1422～1461年。勝利王ともいう。父王シャルル6世の死後百年戦争終結時に即位。当時フランスの北半はイギリス軍およびそれと結ぶブルゴーニュ派の支配下にあり、1歳に満たぬヘンリー6世が英・仏両王を兼ね、シャルルはアルマニャック派の支持でロアル南部のブルジュに退いた(＜ブルジュの王＞とよばれる)。1429年オルレアン放棄の危機に際してジャンヌ・ダルクが出現し、イギリス・ブルゴーニュ同盟軍を撃破し、王はランスでようやく戴冠(たいかん)式をあげた。1435年ブルゴーニュ派と和解し、1453年までにカレーを除く全土からイギリス軍を駆逐し、百年戦争を終結させた。財政強化、常備軍の創設などで王権の強化に努めたが、皇太子(ルイ11世)と対立、毒殺をおそれて餓死したともいわれる。→前ページ(写真)

⑤ 8世(1470～1498) 在位1483～1498年。ルイ11世の子。はじめ姉のアンヌが摂政、1491年親政をとる。ブルターニュ公の長女アンヌと結婚して広大なブルターニュを王領とし、諸侯の反抗を鎮定してさらにイタリア遠征の端緒を切った。一時ナポリ王国を占領したが、ドイツ・スペインと結ぶイタリア諸都市の反撃で失敗した(→イタリア戦争)。後嗣がなかったので直系バロア家はその後断絶した。

⑥ 9世(1550～1574) 在位1560～1574年。アンリ2世の第2子。兄のフランソワ2世に次いで即位。未成年の間は母カトリーヌ・ド・メディシスが摂政となったが、その後も病弱のため実権は母が握った。1562年ユグノー戦争が起ったが、彼は熱烈な新教徒の提督コリニーを信任し、スペインに対する戦いを企てた。カトリーヌはこれを喜ばず、聖バルテルミーの虐殺を起し、王は2年後病死した。

⑦ 10世(1757～1836) 在位1824～1830年。ルイ15世の孫、ルイ16世および18世の弟にあたる。ブルボン朝最後の王。フランス革命勃発(はつぱつ)後ただちにドイツに亡命、エミグレの中心となって反革命運動に力を尽くした。王政復古後帰国し、ウルトラ王党派の中心人物となった。兄ルイ18世の死後即位し、首相ビレールを用いて瀆聖(とくせい)処罰法、亡命貴族の旧領地買戻(かいもどし)資金国庫負担法、長子相続法などの反動政策をとり、一時自由派のマルチニャックを用いたが1830年7月末召集の議会解散、出版の自由剝奪(はくどつ)選挙法の改正を強行しようとして七月革命を招いて退位し、スコットランドに亡命、北イタリアで没した。

〔喜多迅鷹〕

シャルル [Jacques Alexandre César

Charles] (1746～1823) フランスの物理学者。ソルボンヌ大学およびパリ工芸学校の教授。気体の物理的性質を研究し、1787年(シャルルの法則(ゲイ-リュサックの法則))を見いだした。この研究のきっかけは気球の飛揚に関係しており、1783年モンゴルフィエと同じ年に水素気球の実験を行なった。さらにいろいろな実験的な技術を開発し、同年末には人間が制御する気球飛行を実現した。科学アカデミー会員。

〔藤村 淳〕

シャルル-ドルレアン [Charles d'Orléans] (1391?～1465) フランスの詩人。シャルル6世の甥(おい)。若くして父をブルゴーニュ公ジャンに殺され、母および妻とも死別、父の復讐(ふくしゅう)を企ててアルマニャック派を率いてフランスを二分する内乱の口火を切ったが、アジャンクールの戦いで捕えられ、イギリスで25年間の幽閉生活を送るなど不運な半生を送った。帰国後は政治を離れ、プロワ城内で詩作に没頭した。《牢獄(らうく)の歌》など、繊細優雅な精神で愛と自然をうたった詩を多く残した。

〔泉 邦寿〕

シャルルのほうそく 【シャルルの法則】
⇒ゲイ-リュサックの法則

シャルルマーニュ ⇒カール1世

シャルロア [Charleroi] ベルギー南西部、サンブル川に沿う工業都市。人口25,000(1966)。石炭産業と鉄鋼業の中心地で、ガラス・電気器具の生産もある。北方約60kmにある首都ブリュッセルとは、運河で通じている。古くはシャルノワとよばれた要塞(ようさい)の町で、第1次世界大戦の激戦地である。

シャルンホルスト [David von Scharnhorst] (1755～1813) プロイセンの軍人。イエナの戦いでナポレオンに敗れて捕虜となったが、のち敗戦の教訓からグナイゼナウとともに軍制改革に乗り出し、プロイセン軍の近代化をはかった。一時ナポレオンにきらわれて追放されたが、その後も改革の推進役となり、解放戦争ではブリュッヘルのもとで参謀として活躍し、そのときの戦傷がもとで死んだ。

シャーレ [Schale] 細菌学・医学・生物学などで用いられる容器。円形の底板の周囲を直角の浅い縁が囲んださ状の容器と、それと同形でその外部を囲む大形のふたからなる。ふつつ中に固形培地を溶解して流し込み、固形化させて細菌の培養に用いる。しかし、液体培地を流し込んだり、滅菌したスライドグラスを入れたり、寒天ゲル内沈降反応に用いたりするなど種々の用途がある。ふつつ乾熱滅菌に耐えるガラス製であるが、合成樹脂製でガス滅菌し、使用後捨てるものもある。大きさは種々のものがある。〔和気 朗〕

しゃれいうん 【謝霊運】 (385～433) 中国、六朝(りくちよう)時代の宋(そう)の詩人。南

斉(なんせい)の詩人謝朓(しゃちょう)を小謝、謝靈運を大謝という。当時、権勢を誇った大貴族の家がらの出身で、豪奢(こうしゃ)な生活を送り、博学多識、書画を愛し、仏教に帰依した。自然の風物を芸術的に洗練された手法で詩にうたい、山水を描写する詩風を開き、その意味で田園を詩に取り上げた陶淵明(とうえんめい)と並び称せられる。詩作のほか、仏教經典の翻訳に貢献するところがあった。

しゃればん 【洒落本】 江戸中期小説類の一種。書形は半紙四つ折りで、〈小本〉ともよばれた。遊里の風俗や客と遊女の応対のようすなどを、また、通と穿(うが)ちの町人の通人ぶりをおもしろおかしく描く。1751年(宝暦1)ごろから、漢学の素養ある者が中国の艶史(えんし)(遊里小説)をまねて書いたのに始まる。次いで《異素六帖(いそろくじょう)》で作者沢田東江が《唐詩選》と《百人一首》を巧みに結びつけて遊里の情景を滑稽(こっけい)に描いたのが評判になり、さらに《遊子方言》が、会話を中心に遊客のようすを細かに表現して洒落本の形式を確立した。山東京伝は《通言総鑑(つうげんそうがみ)》《傾城買四十八手(けいせいがいしじゅうはって)》などで写実的な洒落本の手法を完成したが、寛政の改革で京伝が処罰されるとともに洒落本の発行も禁止され、その写実手法は滑稽本に、またその恋愛情緒(じょうちよう)は人情本にそれぞれあを譲った。〔小池正胤〕

シャーロック-ホームズ コナン・ドイルの小説に出てくる私立探偵(たんてい)。冷静・的確で推理力にかけては天才であり、本職の警察があきらめて迷宮入りとなりかけた多くの事件を、物語の語り手でもある医者ワトソンを片腕に解決する。独特の個性をもち、天才的な推理力とともにユーモアと機知に富む。ドイルは、大時代代の恩師ベル博士をモデルにこの名探偵を創造したといわれる。ホームズの人気は大きく、欧米ではホームズ愛好会もできている。彼の活躍する作品に《緋色(ひいろ)の研究》《四つの署名》《恐怖の谷》などがある。〔橋本慎矩〕

シャーロット [Charlotte] アメリカ合衆国ノースカロライナ州南西部、ピーメント台地に発達した工業都市。人口28万5,000(1973)。綿花・自動車・機械工業が盛んな州第1の都市である。1867年創立の黒人大学がある。

ジャワ(島) [Java] マライ諸島の大スンダ列島の中で最も重要な島で、インドネシア共和国の中心となっている。首都ジャカルタはこの島の西部にある。面積12万6,012km²。人口6,306万(1962)。東西に火山帯が走り、標高3,676mのスメル山をはじめ、2,000m以上の火山が約50あり、しばしば噴火によって多数の人命と施設に被害を与えた。北部の海岸には平野が開け、南部の海岸は山地が迫る。高温多雨で、年降水量は山地で3,000mm、平野で2,000mmに達しており、11～3月に雨季がある。樹木がよく

茂り、古人はこの島を〈緑の幻想曲〉とよんだ。多数の火山からの噴出物は肥沃(ひよく)な土壌(どじょう)に変わり、耕地面積は全島の70%に達し、土地利用はきわめて集約的である。農業が主産業で、この島を植民地としたオランダ人は、サトウキビの栽培を奨励し、1929年には砂糖の輸出は世界一になったが、インドネシア共和国の独立後は農園が国有化されたためふるわない。ほかに輸出用作物としては、タバコ・コーヒー・茶などがある。人口密度は1km²あたり450人と極度に高く、インドネシアの四つの大島中、最大の人口が集中し、爆発的な増加のため、住民の食料生活は不安である。住民の75%はジャワ人で、ほかに西部地方と高地にスンダ人、東部地方とマズラ島にマズラ人がいる。オランダの植民地時代に中国人の移民があり、現在約50万人の華僑(かきょう)がおもに都市に居住している。主要都市は首都ジャカルタのほかに、東部にスラバヤ、西部にはバンドンがある。

10世紀までインド帝国の支配下にあったため、ヒンズー教と仏教の影響を受けた遺跡や村落自治組織がみられる。15世紀のマラッカ王国の出現は、インド文明に代わってイスラム教の伝来に道を開いた。1606～1942年までオランダの植民地下にあり、第2次世界大戦中の1942～1945年(昭和17～20)は日本に占領された。1946年マライ諸島のほかの島々とともにインドネシア共和国として独立した。〔大崎 晃〕

ジャワ(海) [Java] マライ諸島のうち、スマトラ・ジャワ・ボルネオ・セレベスの島々に囲まれた海域で、豪亜地中海の一部をなす。第2次世界大戦中の1942年(昭和17)日本軍がスラバヤに上陸した際にジャワ海海戦が行なわれた。

ジャワげんじん 【ジャワ原人】 ビテカントロプス-エレクトスともいう。ダーウィンは《人類の由来》(1871)において類人猿(はいじんえん)と人の間の〈欠けた輪〉に触れ、1868年E. H. ヘッケルはことばをもたない猿人の化石がマライ諸島に発見されるであろうと予言した。この予言を信じたオランダの人類学者デュボア(1858～1940)が、ジャワ島ソロ川流域のトリニルで発掘し、1891～1892年にかけて発見された、遊離した猿的な大白歯頭蓋(だいはいしとうがい)破片と大腿骨(だいたいこつ)のこと。ほかに下顎(かがく)骨片と5本の大腿骨が発見され、1936年以後ケーニッヒスワルトによって発見された2個の頭蓋と下顎1個がある。いずれも洪積世(こうせきせい)中期の動物相を示すトリニル層から出土した。

形態学的特徴は、頭骨の幅130mm、長さ185mm、脳容量850～900cc、耳頂高94mm、長高指数51.4%で、長く狭く、ことに低い。後頭隆起は類人猿と同じく乳様上櫛(じょうしつ)と連続する。上顎歯弓には歯隙(しげき)がある。

〔鈴木 尚〕

シャーン(地方) [Shan] ビルマの東部地方。中国・ラオス・タイと接する平均海拔1,000～1,300mの高原で、西端は大断層崖(だんそうがい)となりシタン川(したんがわ)のつくる中部ビルマ平原に臨む。シャーン高原は起伏に富み、サルウィン川が南北に深い峡谷をつくって貫流している。おもな居住民族はシャーン族で、人口約130万といわれる。銀・鉛その他の鉱産資源が多い。おもな都市はラショー、タウンジー。

シャーン [Ben Shahn] (1898～1969) アメリカの画家・デザイナー。ロシアのリトアニアにユダヤ人を両親として生まれた。1906年家族とともにアメリカに渡り、石版工として苦学しながらニューヨーク大学などに学んだ。その後ヨーロッパ・北アメリカに旅行、帰国後サッカーバンゼッティ事件などの社会的主題による連作を発表してリベラに認められ、ロックフェラー・センターの壁画を合作するに至る。作品に漂う哀愁をおびた人間性の表白は、独自の表現をみせている。〔酒井忠康〕

シャーンカラ [Śaṅkara] (700～750) インドの宗教家・哲学者。梵我(はんが)一如の思想を哲学的に深めて不二元論を唱導し、



ジャワ島 中部ジャワにある仏教建築の遺跡ボロブドール。8～9世紀のものと推定され、すぐれた彫像が多く残されている

ベーダーンタ派(→インド哲学)の中の主流を形成している不二元論学派を創設した。主著に《ブラフマ-スートラ註解》がある。彼は四つの僧院を建てたといわれ、その中心のなものは南インドのシュリンゲリーにあり、これらの僧院の院長は代々シャーンカラ-アーチャーリヤとよばれ、今日なお精神的指導者として尊崇を受けている。

〔前田専学〕

ジャン-クリストフ ロランの長編小説(1904～1912)。ドイツの音楽家ジャン-クリストフの苦難と波瀾(はらん)に満ちた生涯(しょうがい)を描いた10巻の大作。主人公が芸術と人生の真実を求めて苦悩し、普遍的な人間像にまで自分を高めていく姿には、作者の真理と人間性への熱烈な信仰がみなぎっている。主人公にはベートーベンのおもかげを認められ、方法的にはドイツの教養小説の作風が取り入れられている。

ジャングル [jungle] 一般には熱帯の密林をいうが、インドでは荒地や耕作されていない土地、森林も意味する用語になっている。熱帯多雨気候帯の常緑広葉樹林では下ばえやつる植物などが厚く密生した熱帯雨林の典型的なものをいう。クワ科・マメ科・フタバガキ科に属する巨木が茂るが、シタン・コクタン・チークなどを除けば有用材が少ないので林業はあまりふるわない。南アメリカのアマゾン川流域、ニューギニア、東南アジア、インド、アフリカのコンゴ盆地などに分布する。〔大石堪山〕

ジャンスキー [Karl Guthe Jansky] (1905～1950) アメリカのベル電話会社の電信技師。1931年に波長14.6mの電波を用いて電波を観測中、1恒星日を周期とする電波を発見した。これは銀河が南中するときに極大を示すので、銀河からくるものと判断した。また、この電波の最強域が、銀河系の中心方向と一致することも明らかにになり、ここに電波天文学という新しい天文学の分野が開けた。

ジャンセニスム [jansénisme] 17世紀中ごろから18世紀初頭にかけてのカトリッ

シャーン
《ハンドボール》
1939 ニューヨーク近代美術館蔵



ク教会内の運動。オランダの神学者ヤンセン(1585～1638)の名に由来する。彼はイエズス会の恩寵(おんちよう)論、妥協的道德を非難し、神の恩寵の絶対性を主張した。彼の神学は親友のサン＝シラン修道院長デュバルジュの厳格主義的实践とあいまって、広くフランスで受け入れられ、特にパリ近郊のポール＝ロワイヤル修道院を中心に熱烈に支持された。1640年ヤンセンの遺作《アウグスチヌス》が出版されるとイエズス会から攻撃を受け、ポール＝ロワイヤル修道院のアルノーはヤンセン説弁護に奮闘したが、教皇インノケンチウス10世によって1653年、ジャンセニスムは異端の宣言を受けた。以後パスカルがジャンセニスムの立場から《田舎(いなか)人への手紙》で巧みにイエズス会に反撃したが、ついにポール＝ロワイヤル修道院も閉鎖され、精神的には強い影響力を残しながら運動としては終息した。ヤンセンの恩寵論がカルビニズムに近いことが迫害の最大理由だが、この派の支持者がフロンドの乱に参加するなどフランス絶対王政への抵抗精神を有していた人々であることも迫害を招いた理由となっている。

〔石井忠厚〕

シャンゼリゼ [Champs-Élysées] フランスの首都パリにある美しい並木通り。コンコルド広場からエトアル広場の凱旋門(凱いせんもん)まで、約2kmにわたって延び、高級服飾店と喫茶店と劇場で有名。1616年、マリ＝ド＝メディシスによってつくられた。北西端にあるエリゼー宮は現在は大統領官邸となっているが、かつてナポレオンが住んだものである。

シャンゾク 【シャン族】 タイ諸族の一。ビルマのシャン州を中心にアッサム・タイ・ラオスなどにも居住する。言語は北方タイ語族に属するが、他のタイ語族とはかなり異なる。人口は約100万人強。敬虔(けいけん)な仏教徒で生業は農耕を主とする。ナンチャオ王朝などかつては強力な王朝をもち、16世紀にはアッサム・ビルマ・シヤムなども統治していた。父系出自による氏族組織をもち、社会階層は世襲的に固定しているが、カースト内婚などは存在しない。

〔竹村卓二〕

シャンソン [chanson] フランス語で〈歌〉〈小唄(こた)〉の意味。フランスの世俗的歌曲をさし、今日ではおもにパリの流行歌をいう。

【特徴】 J. J. ルソーの《音楽辞典》(1767)によれば、〈シャンソンとは、きわめて短い叙情詩の一種で、ふつう快い主題が扱われ、くつろいだときに歌われる〉、またラルースの《シャンソン辞典》(1968)によれば、〈シャンソンは、民衆の心を表わし、ことばと音楽の結合から生まれた独創的な芸術である〉とされている。一般に歌詞が物語になっているものが多く、曲はクープレという物語部分と、ルフランというくり返

し部分とからなりたつ。歌手は自分の個性でシャンソンを歌い演ずることによって、作者と共同してその歌に生命を与えるものとみなされる。あるシャンソンをはじめて歌って成功させるのをクレアシオン(創唱)というが、シャンソンでは創唱が特に重んじられ、かつては創唱者以外の歌手が歌うことはほとんどなかった。しかし、第2次世界大戦後、シャンソンが国際化するとともに、このような特色はしだいに薄れている。

【歴史】 シャンソンのみなもとは、中世の吟遊詩人の歌にさかのぼることができる。11～13世紀ごろ、南フランスにトルバドルが現われて、多くの世俗歌曲を残した。北フランスのトル＝ベールは、それをさらに発展させ、恋愛歌から踊りの歌までいろいろな形式ができあがった。14世紀のアルス＝ノバの時代には、マジョーらの作曲家によって、多声部の歌曲が盛んにつくられた。17世紀にはいと、セーヌ川に掛けられたポン＝ヌフ(新橋)がパリの盛り場となり、集まった人々を前にして大道歌手が歌った。特に特権階級や政府を風刺した歌が喜ばれたが、このような風刺歌の作者兼歌手をシャンソニエという。この時代から、シャンソンは名実ともに民衆のものになった。

歌い手たちに職場を提供し、近代シャンソンの温床としての役割を果たしたのはカフェ＝コンセール(音楽を聞かせる喫茶店)である。最初のカフェ＝コンセールは1770年に現われ、19世紀後半には最盛期に達して、数多くの人気歌手を世に送り出した。一方、1731年にはカボー(〈地下の穴倉〉の意)とよばれるものができた。これはシャンソンを愛する詩人たちのクラブで、彼らは日を決めて集まっては、自作の歌を披露(ひょう)し合った。1804年には、カボーに対抗してゴゲットというシャンソン＝グループもつくられた。これはメンバーが労働者や職人よりなり、キャバレーに集まっては歌を楽しんだ。こうして、ベル＝エポック(1900年前後から第1次世界大戦までの〈良き時代〉)のころ、シャンソンは多彩な発展を遂げて今日の形を整え、女性歌手イベット＝ギルベール(1867～1944)が現われて、語るように歌う、シャンソン独特の唱法を確立し、のちの歌い手に大きな影響を与えた。

20世紀にはいと、シャンソンの中心は、カフェ＝コンセールからミュージック＝ホールに移る。大きな劇場で大がかりなショーを提供するミュージック＝ホールは、イギリスに範をとり、1868年にパリに出現した。第1次世界大戦後はミュージック＝ホールのレビュアーが人気を集め、ミスタンゲットやシュバリエらのスターが活躍した。また、ダミア(1892～1978)らは暗い現実的なシャンソン(シャンソン＝リアリスト)を歌って成功した。このころからラジオが普及し、さらに1930年以降、レコードやトーキー映

画が、シャンソンの有力な媒体となり、ジャズやラテン＝リズムなど、外来音楽の影響もみられた。シャンソンにジャズの手法をとり入れて新分野を開拓したミレイユに続いて、トレネは自由奔放なシャンソン＝ファンテジスト(幻想的シャンソン)をつくって、第2次世界大戦後のシャンソンへの橋渡しをした。1940年代には偉大な女性歌手ビアブが活躍し、1950年前後にはモンタン・ジャクリーヌ＝フランソア・ジュリエット＝グレコらが人気を獲得した。カボー以来の伝統を継ぎシャンソン＝リテレル(文学的シャンソン)も復活し、ジョルジュ＝ブラッサンス・レオ＝フェレラのシャンソニエがすぐれた作品を発表した。さらに、ジル＝ベール＝ベコー・シャルル＝アズナブールらはリズム感にあふれた歌い方で若い世代の人気を集め、その後のシャンソンの傾向を決定づけた。1961年にはロックやツイストがはいり、この形を使ったイエー＝イエとよばれる歌が流行した。ジョニー＝ハリディやシルビー＝バルタンはイエー＝イエの人気スターである。1960年代の半ばごろから、フォークソングなどの影響を受けて、力強くしかも内容のあるシャンソンが好まれ、アダモ・ミシェル＝ポルナレフらの自作自演型の新人が台頭して今日に及んでいる。

〔永田文夫〕

シャンソン [André Chamson] (1900～) フランスの小説家。故郷南フランスのセベヌ地方がその作品に深い影を落とし、はじめ地方の自然を描く作家として出発。1930年代には、特異な思想小説《懲役船》などを書き、いわゆる人民戦線派の代表的作家として活躍した。他に《雪と花》などがある。

シャンソン＝ド＝ジェスト フランス中世文学のジャンルの一。国王や封建諸侯の武勲を歌った長編叙事詩で、〈武勲詩〉ともよばれる。ほとんどの作品の作者は不詳で、11世紀末から12世紀初頭にかけて書かれ、以後衰退する。同じところに隆盛であったいわゆる聖者伝と異なり、周到な心理的配慮が織り込まれ、外的史実を空想的な自由な解釈で潤色しているのが特徴。《ローランの歌》《ルノー＝ド＝モントーバン》《ギヨームの歌》や十字軍を題材とする一群のものなどがある。

〔池田公麿〕

シャンタン [shantung] もと中国の山東省で柞蚕糸(さくさんし)を手織りにしたもの。ふつうたて糸に生糸、よこ糸に玉糸・紬糸(つづいと)を用いた平織りの布地で、よこ方向にところどころ節が現われて、趣のある外観を示す。この外観に似せた織物が化学繊維でもつくられる。合服地・夏服地としてドレスに賞用される。無地染めが多い。

シャンツェ [Schanze] スキーのジャンプ台。飛躍台(ジャンピングヒル)ともいい、助走路(インラン、踏み切り地点を含む)・着陸斜面(ランディングスロープ)・圏

外(アウトラン)からなる。力学的な数値に基づいて設計されており、そのシャンツェにおける最長飛距離はおのずから決まっています、オリンピック大会や世界選手権大会では70m級・90m級の二つのシャンツェが使われる。

シャンデルナゴル [Chandernagor]
インド共和国東部、西ベンガル州にあったフランスの植民地。カルカッタの北約34km、フーグリ川に沿い、面積は約10km²にわたっていた。1688年フランスの商業基地として建設されたが、その後、勢力を増大したイギリスとの間で争奪がくり返された。第2次世界大戦後インドに返還された。

ジャンヌ・ダルク [Jeanne d'Arc]
(1412～1431) 百年戦争末期のフランスの愛国的少女。ロレーヌ州南部のドンレミーの富裕な農家の娘。この地域はアルマニャック派貴族の本拠となっていたが、周囲はブルゴーニュ派で、たえず惨禍にさらされていた。13歳のとき「フランスを救え」という神の声を聞き、1428年シノンの宮廷でシャルル7世と会見、1429年「主よきませ」の賛歌を歌いつつ小部隊でイギリス・ブルゴーニュ同盟軍を破ってオルレアンを解き(オルレアンの戦い)、同年7月ランスでシャルル7世の戴冠式(たいかんしき)が挙行された。1430年コンピエーニュでブルゴーニュ派に捕えられてイギリス側に引き渡され、宗教裁判で異端の判決をうけ、1431年5月30日ルーアンの(旧市場)広場で火刑に処せられた。1456年名誉回復裁判が行なわれ、1920年に聖者の列に加えられた。

[喜多迅鷹]

ジャンパー [jumper] ゆったりとした活動的な上衣。たけはウエストたけまたはそれよりやや長めで、すそとそで口にベルト・カフスまたはゴムがついてしぼられる形のものが多く。作業着・遊び着・スポーツ着として男女ともに広く愛用されている。また、そでなしで深いえりぐりをもつ胴着をいい、これにスカートが続いているものをジャンパースカートまたはジャンパードレスという。

シャンハイ 【上海】 中国の東海岸、揚子江河口の三角州にあり、黄浦(こうほ)江西岸に位置し、呉淞(くそん)江との合流点に発達した大港湾都市。商工業は中国で最も盛んであり、北京(ペキン)とともに中央政府直轄の特別市となっている。面積5,800km²。人口1,082万(1972)。別名を滬(こ)または申(しん)という。12市轄区と10市轄県に分かれている。

揚子江流域一帯を後背地とする大商港で、中国沿岸はもとより、世界各地と連絡し、港は30,000トン級の大型船が入港でき、黄浦江岸壁には100隻以上の外航船が停泊できる。鉄道は、滬寧(こない)鉄道(上海～南京(ナンキン))によって南京に、また滬杭(ここう)鉄道(上海～広州)によって杭州に達し、市北部

の停車場から北京・福州・広州・成都・蘭州などと結ぶ長距離直通列車が発着する。飛行場は龍華・虹橋と二つあり、虹橋空港は最近整備された中国最大の空港で、国内線・国際線の定期航空路に利用される。かつては商業のみの異常なまでの発展を特色としていたが、1860年に工業が始まり、第2次世界大戦前は軽工業、特に紡績工業の発達が著しく、重工業はわずかに修理・組み立てを主とするものにすぎなかった。1949年当時は、外国資本企業が1,200もあったが、以後これらを回収し、第1次5か年計画により上海郊外に多くの工業団地が次々と誕生し、現在は製鉄・機械・電機・化学・車両・造船のほか、繊維・カメラ・時計などの工業も盛んである。文化面では華東地方の中心で中国科学院華東分院、復旦・同済・華東師範大学など研究機関や大学、蔵書数500万冊をこえる図書館や美術館・博物館・商務印書館・中華書局上海編集所・上海人民出版社・古典文学出版社など出版活動も活発に行なわれている。娯楽施設では、戦前から有名な(大世界)をはじめ、労働者・青少年のための工人文化宮・少年文化宮などの諸施設がある。

12世紀に揚子江の沖積地(ちゅうせきち)に上海鎮として現われ、元代には県となり、明(みん)・清(しん)時代には松江府に属していた。



ジャンヌ・ダルク

しかし上海が脚光を浴びるようになったのは南京条約(1842)による開港以後で、1845年以降はイギリス・フランス・アメリカ合衆国が次々と租界を設け、企業を開き、国際都市としての様子を呈するようになった。しかし、列強に支配された一面とともに革命の伝統もあり、1921年、中国共産党はこの地で成立し、1925・1926・1927年の上海労働者の武装蜂起(ほうき)など中共政権誕生の重要事件の舞台でもあり、また1932年1月、日中両軍が衝突した(上海事変)もここで起きている。

[船越昭生]

シャンハイクーデター 【上海クーデター】 中国、上海で、1927年4月12日に蒋介石(しょうかいせき)が起こした反革命クーデター。四・一二クーデターともいう。当時、北伐と国民革命が進展する中で、3月21日上海の労働者は武装蜂起(ほうき)し、臨時市政府を組織した。帝国主義と反動派はこの事態に恐怖し、南京(ナンキン)事件を起こすとともに、蔣に裏切りを働きかけた。労働者は陳独秀の右翼路線のもとに、蔣の武装解除命令に応じ、その結果数百名が逮捕・虐殺されて、市政府は崩壊した。この事件は国民革命挫折(きせつ)の転機となり、その直後に国民政府が樹立した。

[狭間直樹]

シャンハイじへん 【上海事変】 【第1次上海事変】 一・二八事変ともいう。満州事変以後、日本が華中へ侵略を拡大して起こした戦争。1932年(昭和7)1月上海で発生した日本人僧襲撃事件を口実に、日本は抗日運動抑圧を要求し、日本人保護の名のもとに日本海軍陸戦隊が上海を攻撃すると、抗日運動の高揚にさきえられて十九路軍は市民とともに抗戦した。しかし、蒋介石(しょうかいせき)の裏切り、イギリスなどの策動によって5月5日停戦協定の成立をみた。

【第2次上海事変】 蘆溝橋(ろこうきょう)事件によって全面的な中国侵略戦争を開始した日本が上海方面に設けた第2戦線。日本軍人射殺事件を口実に、1937年8月13日、日本は上海攻撃を開始して3個師団を投入し、11月11日上海を陥落させた。これを契機に南京(ナンキン)政府も抗日に追い込まれ、同年

上海

黄浦江に沿う上海の港とその市街地。早くから中国最大の貿易港として発展し、現在もその機能はさらに増大している





ジャンボ・ジェット ボーイング747



9月第2次国共合作が成立したが、実質的には共産党の指導する民族革命戦争としての抗日戦争が展開されることになった。

〔狭間直樹〕

ジャン・パウル [Jean Paul] (1763～1825) ドイツの小説家。本名はフリードリヒ・ヒーター。ライプツヒで神学を学び、貧しい生活を続けたが、のち官職について終身年金を受け、創作に没頭した。その作品には構成・文体・感情表現などに散漫な点もあるが、小市民の生活を多感で鋭敏な風刺力でとらえた処女作《ブーツの生涯》(1796)や《フィクスラン》(1801)《ジベンケース》、ゲーテの《ウィルヘルム・マイスター》(1828)にならった教養小説《巨人》(1800)などがある。当時の流行作家であり、ドイツ・ロマン主義の先駆者として、ケラー・ラーベらに大きな影響を及ぼした。また美学者としての著作《美学入門》もある。

〔関 徹雄〕

シャンパーニュ [Champagne] フランス北東部、パリの東方にあたる地方名で、旧州名。ムーズ川・マルヌ川・セヌ川の上流地方で、アルデンヌ・マルヌ・オートマルヌ・オーブなどの県を含む。有名なシャンパン酒は、この地方特産の良質白ぶどう酒である。中心都市のトロアは中世ヨーロッパの通商路の交点にあたり、定期市で知られた。第1次世界大戦では激戦の舞台になった。地名はラテン語で平原の意のカンパニアに由来する。

〔野間三郎〕

ジャン・バルジャン ユゴーの長編小説《レ・ミゼラブル》の主人公。一片のパンを盗んで投獄され、社会への憎悪をいだいて出獄するが、司教から人間の根源的善性と博愛の情を教えられ、以後社会の悪と戦い、不幸な人々を献身的に救おうとする感動的な人物。

シャンプー [shampoo] 洗髪・洗髪剤のこと。洗髪剤にはせっけん性と非せっけん性の2種があり、外観上は粉状・液状・クリーム状がある。現在はラオリアル・アルコール・せっけんなどを主体にした液状のものが多く使われる。クリームシャンプーはラノリンその他の油脂類を各種合成洗剤などの混合物で乳化し、クリーム状にしたもの。オイルシャンプーは起泡性(きうせい)が少ないが、つやのない毛やふけ性に適す

る。

〔メイ・ウシャマ〕

シャンプラン [Samuel de Champlain] (1567～1635) フランスの探検家。1603～1607年、国命によってカナダ探検におもむき、セントローレンス川をさかのぼり、ケベックを建設した。1620年カナダの初代総督となり、1629年イギリス軍のケベック侵入に際しては捕虜になったこともある。アメリカ合衆国との国境にあるシャンプレーン湖は彼の発見にちなんで命名されたもの。

シャンペン ⇒ぶどう酒

ジャンボ・ジェット [jumbo jet] 一時に大量の旅客や貨物を輸送するジェット輸送機。航空輸送の需要は旅客・貨物とも逐年増大する一方、大都市付近の飛行場は発着機数が飽和に近づき、新たに空港を建設したり既設の空港を拡張したりすることが困難な事情などが、いまや世界各国共通の問題になっている。既設空港付近の空のラッシュをこれ以上悪化させないで、輸送能力を高める方法の一つとして、輸送機1機あたりの積載量を増すことが考えられた。この方法は旅客1人1kmあたりの運搬費を引き下げうる利点もあって、ジャンボ・ジェットは生まれた。第1陣を承けて1970年代の初頭から就航。ボーイング747は推力19.7tのターボファン・エンジン4発、全備重量約320t、主翼面積511m²と、現用のDC-8などに比べて2倍近い大きさで、最高490人の乗客を乗せ、巡航速度1,000km/時、航行距離7,400kmの性能をもつ。ロッキード社でも、軍用輸送機C-5Aを民間向け貨物輸送機に改造するL-500の計画を発表している。ジャンボ・ジェットの導入は、一時に従来の3倍以上の旅客や貨物が発着するという点で、空港施設やサービス、空港都心間の関連輸送機関にも変革を要求するので、各国の第1種国際空港ではその受け入れ態勢を整備している。

〔中口 博〕

シャンポリオン [Jean François Champollion] (1790～1832) フランスのエジプト学者。少年時代からエジプトに関心をもち、パリ大学・グルノーブル大学で東洋語を学んだ。1822年コプト語の知識に基づいて、ロゼッタストーン(1799)のヒエログリフ(聖刻文字)の解読に画期的な成果をあげた。《古代エジプト人のヒエログリフ体系

図要》(1824)はその成果をまとめたものである。のち、グルノーブル大学の教授を経て、ルーブルのエジプト博物館館長となった。1828年エジプトに旅行して健康を害し、翌年帰国して、彼のため創立されたパリ大学のエジプト考古学の教授の職についたが、就任講演をしただけで早逝(そうせい)した。死後《エジプトの記念物》《エジプト語文法》《ヒエログリフ辞典》などが出版された。なお、兄のフィージャックも考古学者として知られる。

〔兼岩正夫〕

シャンボールじょう 【シャンボール城】 フランス中西部、ロアル川支流コンソ河畔にあるフランス初期ルネサンス建築を代表する中世的な城。当初は、狩りの集会所として用いられた。正方形の敷地の四隅(しぐう)に塔が建ち、中央にパビヨン(あずまや)がある。1519年にフランソワ1世が建造に着手、1936年ごろに完成した。

しゅ 【種】 生物分類の基本的単位。若干の個体があり、雌雄両性の差異は別として、個々の形質に至るまで同一の類型に属するならば、それらの個体は同種である。しかし、その基準だけで種を厳密に判定することはできない。それは、生物はすべての個体について多変異があり、どれだけの変異の幅をもって一つの種とするかは容易に決められないからである。ある個体群において、すべての正常な雌とすべての正常な雄とが相互に交配して生殖可能であるならば、その個体群は同種であり、また同種であれば、原則として、そのように生殖可能であることを種の基準とする場合が多い。しかし、種の判定のためにいちいち交配してみることが容易ではなく、古生物の場合にはまったく不可能である。したがって、どの程度の形態の類似であれば生殖可能であるかについて多くの例で経験的に指標を決め、それにしたがって形態的に種を判定していくことを原則とするほかない。実際に多くの場合、そのような方法で学者間でほぼ一致する種の判定がなされている。

多くの特徴を共通にもつ種の集合は属とよばれる。同属の諸種は、いくつかの形質において差異を示す。生物の分類系を全体としてみると、綱・目のように上位の分類階級では一定数の特徴を共通にもつことが基準とされ、属・種のように下位の分類階級になるほどある形質での差異が基準とされる傾向がある。

【命名】 生物学の研究上、種に国際的に共通なよび名を与えることが必要となる。その呼称が国際命名規則によって決められた学名である。学名にはリンネによって確立された二名法が採用されている。二名法とは、属の名のあとに種を表わす名(種小名)を付したものであり、属名は大文字ではじめ、種小名の語尾はラテン語的にすること定められている。マツ(属)は *Pinus* で、クロマツは *Pinus thunbergii*、アカマツ